

活動テーマ

全校児童がつくる「渋川いきものがたり紙芝居」

実践事例について

全学年が生き物テーマ(1・2年生・草花、3年生・昆虫、4年生・鳥、5年生・魚、6年生・渋川に昔いた生き物)を決めて、渋川学区の「生き物さがし」を実施した。学習のまとめとして、全校児童が、生き物をテーマにしたお話を考え、99作の「渋川いきものがたり紙芝居」を完成させた。

1 本校の環境教育について

(1) 校内研究テーマ

「渋川を愛し持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成～環境と人との関わりを見つめ、ICT を活用した学習を通して～」

(2) 重視するポイント

本校の校内研究は、持続可能な発展のための教育、ESD の視点に立った環境教育のプログラム開発を進めるということである。

ESD の視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。その3つの「つながり」とは、教材の「つながり」、人の「つながり」、能力・態度の「つながり」である。

2 3つの「つながり」について

(1) 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるようにと、全学年がESD カレンダーを作成し実践している。ESD カレンダーとは、学年毎に、1年間の教育の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。ESD カレンダーには、その学年のめざす子ども像や指導のねらい、持続可能な社会づくりの構成概念の何にあてはまるか明記してある。また、矢印を使って、教材同士の「つながり」を一目でわかるようにしてあり、教師はそのつながりを意識して授業に臨んでいる。1年生から、

6年生までのESD カレンダーを一覧すると、本校の環境教育の学びの系統性や関連性も確認することができる。

(2) 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするのかという課題のもと授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で地域内外の人や世代を越えた人との「つながり」も積極的に取り入れている。

(3) 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域や生き物についてを調べるだけではなくて、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたり、行動に移したりする態度の育成を目指している。

3 【事例】渋川いきものがたり紙芝居作り

(1) 単元全体の流れ(全学年対象)

- ア. 昔の渋川を描いた絵図を見て、昔は生き物が身近にいたことや人々が自然と関わった暮らしをしていたことに気づく。そして、今の渋川には、どんな生き物がいるか調べる計画を立てる。
- イ. 各学年が生き物テーマを決めて「生き物さがし」を行い、生き物をテーマにしたお話を考え、紙芝居にまとめることとする。
- ウ. 全学年が、春・夏・秋に地域に出かけて行き「生き物さがし」を実施する。
- エ. 見つけた生き物を紹介する展示物を作り、「渋川ESDミュージアム」を開館して地域

の人々に伝える。

オ、出来上がった紙芝居を地域の人々に発表して、生き物を通して、身近な環境について考える機会にする。

(2) 子どもの学習を支援する組織

子ども代表・地域代表・専門家・教職員・地元企業で組織する「渋川いきものがたり作成支援委員会」を立ち上げた。

支援委員会は、年間3回開催し、どのように子どもたちの紙芝居作りをサポートしていくかについて議論を重ねた。



子どもの活動をサポートする支援委員会

(3) 全99作の紙芝居が完成

児童文学者の今関信子さんの指導を受けて、全99作の紙芝居が完成した。

全クラスが紙芝居発表会を開き、全作品を地域の人々に同時公開した。

その後も6年生は、25回の紙芝居地域公演を行い、2000人以上の人々に発表し、地域のあらゆる世代と交流することができた。幼稚園、保育園、高校、地元企業、ショッピングモール、お寺、自治会、老人会、子育てサークル、敬老会などの各種イベントをまわって、紙芝居を披露した。渋川に昔いた生き物が豊かな自然環境の中で暮らしていたことを伝え、これからの地域の環境について考える機会となった。

(4) 成果

草津市内でも最も都市化された本校区において、全学年がテーマを決めて生き物を探す学習を実施した。実際に生き物調査に出かけてみると、たくさんの生き物がいることに気づき、子どもたちは、生き物と関わったり、体験をもとに紙芝居を作り、地域の人々と交流したりすることを通して、地域の人々とのつながりも深まり、地域への愛着を深めることができた。



地域の発表会で紙芝居を演じる子どもたち

(5) 課題

子どもたちが作った「渋川いきものがたり紙芝居」は、大切にしていきたい。子どもたちが作った紙芝居を地域でどのように活用していくかが課題である。

全学年が地域の生き物探しを実施したが、教師の生き物に関する知識を高める必要があった。そこで、放課後に生き物に詳しい専門家を呼んで、地域の生き物に関する現地研修会【ミニフィールド研修】を実施したり、各学年の生き物に関する教材開発の進捗状況を共有する会議【教材開発研究会】を開催したりした。今後も地域を扱う環境教育を推進していく上では、教師が地域や生き物への見識を深める必要がある。また、どのように地域の人々の協力を得て、地域学習を深めていくかも課題である。

4 エコスクールの取り組みを振り返って

「渋川を愛すること」をめあてに3つの「つながり」を重視した環境教育を推進してきた。子どもたちは、いきものがたり紙芝居作りを通して、地域の環境について考え、「ふるさとのすばらしさ」に気づくことができた。また、地域の様々な立場の世代の人との「つながり」を深めることもできた。本校の環境教育は、持続可能な地域づくりやそれを担う人材育成の場であると捉え、実践を深めてきた。

学校名	草津市立渋川学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.skc.ed.jp